



これからも仲間を大切に  
PTA会長 中里 秀悦

卒業生、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうござい  
ます。

卒業生の皆さんは、この三年間で多くの経験を積んできました。授業や部活動、学校行事の中で仲間と助け合い困難を乗り越える力を育んできたことと思います。特に運動会、文化祭では全員で協力し見事な成果をあげましたね。あの時の皆さんの努力と笑顔は私たちPTAにとっても忘れられない思い出です。

保護者の皆様、お子さまの成長を見守り支えてこられたことに心より敬意を表します。また先生方には、日々のご指導に深く感謝申し上げます。これから卒業生の皆さんは新しい世界へと進んでいきます。失敗を恐れず一歩ずつ挑戦して行けば必ず素晴らしい未来が開けるでしょう。卒業生の皆さんの未来が輝かしいものとなることを心から願っています。

心豊かに  
校長 佐藤 修二

令和七年度も様々な場面での生徒の活躍を見ることができました。部活動や学校行事だけでなくポスターや作文標語、絵画のコンクール、弁論大会など文化、芸術に至るまで多岐にわたる活躍でした。

日々の経験から得られた気づきや学びを明るく前向きに主張する姿、多様な視点から問題を掘り下げ、原稿に頼らず自分の言葉で表現する姿、抽象的なものをモチーフに自由な発想で表現した感性が光る作品から、稲中生の「心の豊かさ」を感じます。コンクール以外でも廊下に掲示されている美術作品を見ると、個性的な作品が多数あります。

子供たちの素晴らしい活躍を見るのができたのも、保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそです。今後、家庭や地域の協力をいただきながら職員一同子供たちの成長を支えていきたいと思えます。

第132号  
令和8年3月6日

発行者 稲井中学校PTA教養部  
稲井中 養部

インフィニティ  
可能性は無限大  
生徒会長 泉田つくし

執行部が新体制となり三ヶ月が経ちました。私達新執行部は、全校生徒が毎日楽しく学校に登校できるよう、前年度から行われているラジオ番組の継続、生徒集会の企画など、先生方に助けられながら執行部の皆で力を合わせて活動しています。

今後は、私の公約である「伝統を守りながら新イベントを開催する」ことの実現に向けて気合いを入れ直していきます。この公約を実現するためには執行部の力だけでは足りません。全校生徒の皆さんの力が重要です。学校を良くするための意見やアイデアがある人は執行部に教えてください。皆さんの意見を参考に「毎日行きたくなる学校づくり」を進めていきます。

初めての執行部で緊張していますが、自分らしく学校づくりに全力を注ぎますのでよろしくお願ひします。



動いて、笑って、盛り上がる!!  
体育的行事実行委員長 梶谷 由奈

今年の運動会は一人一人が活躍できる運動会となりました。私たち実行委員や三年生を中心に、全校生徒が一番いい思い出だったと振り返られるような運動会になったと思います。また、私たち稲中生が一段と成長した姿を、支えてくれた皆様に披露することができ、とてもうれしく思います。準備にはとても苦労しましたが、運動会を成功させることができました。

今年の運動会は全員が動いて笑って盛り上がりました。特別な運動会になりました。私にとって、感動した、最高の運動会でした。



笑顔いっぱい文化祭  
文化行事実行委員長 古牧 心暖

今年の生徒会スローガン「インフィニティ∞可能性は無限大∞」をテーマに、全校生徒の可能性が無限大に広がる文化祭にすることができたとと思います。

文化祭実行委員の全員が、全校生徒が楽しむことを目標にして活動してきました。合唱コンクール、学年発表、有志発表など、さまざまな場面で笑顔が多く見られた文化祭になりました。とても嬉しい気持ちです。文化祭の準備運営をしてくれた仲間たち、当日の文化祭を盛り上げ、成功に導いてくれた皆様にとっても感謝しています。

文化祭実行委員の全員が、全校生徒が楽しむことを目標にして活動してきました。合唱コンクール、学年発表、有志発表など、さまざまな場面で笑顔が多く見られた文化祭になりました。とても嬉しい気持ちです。文化祭の準備運営をしてくれた仲間たち、当日の文化祭を盛り上げ、成功に導いてくれた皆様にとっても感謝しています。

各専門部から

教養部 部長 永沼 裕美

年に一度の稲陵発行にあたり、部員の皆様、担当の先生方の協力のもと無事に発行する事が出来ました。原稿依頼にご協力いただいた校長先生、PTA役員の皆様へ感謝申し上げます。

福利厚生部 部長 亀山 麻耶

今年度の制服の回収は卒業式後に行います。先輩方の多くの制服が後輩に引き継がれるようご協力をお願い致します。

施設部 部長 和泉 大介

今年度は、運動会前に除草を行いました。早朝よりご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

安全指導部 部長 武田 美穂

石巻少年補導員の活動に携わり、私自身も色々なことを学ばせていただきました。子供たちの安全を見守ることができてよかったです。運動会、文化祭での駐車場誘導にご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。



# 稲魂 完全燃焼

## 野球部

3年間の想いを胸に

野球部部长  
遠藤 碧人



## 宝物

バレーボール部部长  
西山 華



## 男子卓球部

### 感謝

男子卓球部副部长  
阿部 慶汰



## 女子卓球部

部活動を振り返って

女子卓球部部长  
平塚 唯花



最後の中総体、結果は9対5で負けてしまいました。チーム一丸となって全力でプレーしましたが、あと一歩及ばず悔しい結果となりました。三年間、顧問の先生や仲間と共に支え合いながら練習、試合ができて本当に楽しかったです。最後まで全力を尽くせたこと、そして仲間や先生への感謝の気持ちで心が満たされています。支えてくださった先生方、保護者の皆さん本当にありがとうございました。これからも稲井中野球部の応援をよろしく願います。

私はバレーボールが大好きです。こんなにバレーが好きなのは一緒にバレーをした仲間、顧問の先生、保護者の皆さんがいたからです。明るさが強さの稲井バレー部はどの部活よりも、どの中学校よりも楽しく笑顔でバレーをしていたと思います。中総体でもその明るさを発揮し、満足する楽しい試合ができて良かったです。ミスをしたらみんなで励まし合い、点が決まったらみんなで大喜びして、自分たちでチームを盛り上げることができました。みんなと一緒に過ごした時間は私の大切な宝物です。

男子卓球部は中総体に向けて、顧問の先生に打ち方を教えてもらったり、チームメイトにアドバイスをもらったりして練習していました。そのおかげで、皆のスキルがとても上達したと思います。中総体本番では、これまでのことを思い出しながら試合に臨みました。試合の結果は悔しいものですが、最後まで粘り強く全力でプレーできたので満足です。中総体を終えて、一緒に練習をしてきた仲間や先生、そして応援してくれた家族に対して感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

私達は、中総体予選リーグ突破することを目標にしていました。チームワークを深め、全員が強くなるように声を掛け合いながら練習に取り組みました。中総体では目標を達成することは叶いませんでした。しかし、全員が最後まで全力を出し切れたので悔いはありません。そして、約二年間の部活動を通して、たくさんを経験し、学ぶことができました。このチームで試合に出れて本当によかったです。支えてくれた仲間、先生方、保護者の皆さんありがとうございました。



陸上競技部

走り続けた日々

陸上競技部部长  
遠藤 歌



男子バスケットボール部

中総体を終えて

男子バスケットボール部部长  
笠原 羽流



女子バスケットボール部

何度でも立ち上げれ!

女子バスケットボール部部长  
佐々木 あめり



剣道部

部活動を振り返って

剣道部部长  
古牧 歩睦



吹奏楽部

全力吹奏!!

吹奏楽部部长  
永沼 陽菜



陸上部は、常に上位を目指し、一人で頑張るのではなく、皆で強くなることを大切に活動してきました。

練習が苦しい時もありましたが、皆で声をかけ合い、一緒に乗り越えてきました。

最後の中総体では多数の県大会出場者が出る素晴らしい結果となりました。日々の練習が全員の成長に繋がったと思います。

今まで支えてくださった顧問の先生、家族の皆さん、そして一緒に頑張った仲間たちに心から感謝していました。ありがとうございます。

中総体を終えて僕は達成感もありますが、悔しさでいっぱいです。

チームをここまで引っ張ってこれたことに安心しています。しかしそれ以上に最後の試合で負けてしまったんだ、これで終わりなんだ、という悔しさがありません。最後までついてきてくれた皆に感謝しています。引退後に部活を見に行った時、引退前と変わらない雰囲気練習していても嬉しくなりました。

部員の皆と、親の人たちの支えがなかったらここまで頑張れていないと思います。ありがとうございます。

私がバスケ部のキャプテンになりたての頃皆と本気のバスケができるのか不安でした。しかし、皆で何度も成功と失敗楽しさと悔しさを味わい、全員で戦えるようになりました。気持ちの違いでぶつかっても、乗り越えることができました。

最後の中総体は、全員が大きく成長した姿で、本気で戦い切りました。少し悔しくもあるけれど、今まで一番いい試合でした。

約二年間バスケ部を熱心に支え続けてくれた船山先生、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

私は約一年間の部活動でたくさんのことを学びました。礼儀作法はもちろん、仲間との絆も学びました。

私が部長という役割に就いたのは一年生の十月頃でした。最初こそ不安だったものの、仲間の協力があって楽しく一年を過ごすことができました。

剣道部は三年生がおらず今までと大きな違いはないので、この一年でこれまでに以上たくさん経験の積み、来年度は少しでも結果が残せるように練習に励んでいます。

今年度の吹奏楽部は、「全力吹奏」という活動目標に向かって精進してきました。夏の吹奏楽コンクールでは、地区大会金賞、県大会出場という結果を残すことができました。結果だけでなく、県大会の舞台上で演奏できた経験は、部員一人一人にとって大きな自信と成長につながりました。そして、文化祭は三年生にとって最後の活動でした。本番は、三年生が私しかおらず、責任を強く感じました。しかし、私は後輩たちのサポートに救われました。仲間の大切さに改めて気づくことができた文化祭でした。



# 一学年

# 秋田芸術体験活動

## 初めての演劇

一年一組 五島 旬

一日目、私たちは演劇「秋田は何もない」を観ました。演劇を観るのは今回が初めてでしたが、それまではあまりおもしろい印象がなかったのですが、どんなものなのだろうという思いでいました。しかし、実際に観てみると、秋田弁や竿燈祭りなどの秋田について学べる内容や、物語の世界観に引き込まれる感覚に、時間が経つのも忘れて魅入っていました。終わった後はとても充実した気持ちになりました。今回の体験で、演劇の印象が変わりました。機会があればまた観劇を楽しめたらと思います。



## 頑張ったわらび座ソラーン

一年一組 阿部樹来凜

秋田芸術体験活動でわらび座ソラーンを教わりました。最初に踊りを見たときは難しそうなお気がしましたが、インストラクターさんが私たちに合わせて優しく教えてくださり、とても心地よくできました。練習では、きれいに踊るために動きを良くしたり、掛け声を大きくしたりして頑張りました。発表の時にはしっかりとできるか不安でしたが、無事に楽しくできて良かったです。

今回の活動を通して、経験することと頑張ることの大切さが分かりました。今後の生活に生かしていきたいです。

## 声でつながるソラーン節

一年組 松本 咲花

私はわらび座ソラーン節の掛け声を担当しました。最初はなかなかタイミングが合わず、みんなをまとめることが難しかったため、不安もありました。しかし、練習を重ねるうちに、掛け声一つで踊りに迫力や一体感が生まれることに気づきました。自分の声で仲間の動きがそろったとき、達成感と楽しさを強く感じました。一人一人の役割が踊り全体を支えていることをとてもうれしく思い、仲間と心が一つになった瞬間を感じました。

この経験から、周りを見ることや責任感を持つことの大切さを学びました。今後の生活に生かしたいと思います。



## 自主研修で学んだこと

一年二組 千葉 心遥

自主研修では、班ごとに分かれて角館をまわりました。私たちの班では、石黒家に行きました。石黒家は全国に広がる有力な一族だったことが分かりました。それから、桜の里でお昼ご飯を食べました。その後は、お土産屋さんを何店舗もまわり、自分や家族へのお土産を買うことができました。角館についてたくさん知ることができ、仲間と協力して活動する大切さを学ぶことができた自主研修になりました。



## 一年間を振り返って

一年一部長 中里 恵美

真新しい制服に身を包みまだあどけなさが残る緊張した面持ちで迎えた入学式から早一年が経ちました。初めての部活動運動会、秋田合宿、文化祭など、先生方のご指導の下、仲間達と協力し合いながら様々な行事を経験し、子供達それぞれに成長を感じることが出来た二年だったと思います。

まだまだ成長過程の子供達。次年度もたくさん成長した姿を見せてくれる事を期待したいと思います。

最後になりましたが、先生方一年間ご指導ありがとうございました。



# 二学年 上級学校訪問

## 上級学校訪問を振り返って

二年一組 遠藤 圭悟

私は東北福祉大学を訪問しました。担当してくださった方から教えてもらったことは、「コミュニケーション」の大切さです。友達の小さな変化に気づいてあげたり、相談に乗るときは適当に返さず、マイナスイメージを言っていたらプラスのことに言い換えたりと、人との関わり方について学びました。そのほかにも担当の方が明るく元気に接してくれて、そこにもコミュニケーションの大切さを感じました。今回の上級学校訪問で人との接し方など、大切なことを学びました。これからの生活にも生かしていきたいです。



## 上級学校訪問を通じて学んだこと

二年一組 岡 和花奈

私は宮城教育大学を訪問しました。一番最初に思ったのは想像以上に校舎が大きかったことです。一つ一つの教室の机とイスの数がとても多く、授業を見学させてもらった時はとても緊張しました。しかし、大学に通っている学生の方々と先生方、皆さんが優しく接して、見守ってくれて安心しました。最初は大学や専門学校がどんな所か分かりませんでした。が、実際訪問して色々な事を学びました。今回の経験を忘れずこれからはもっと自分の進路について向き合って生活をしていきたいです。



## 上級学校訪問を振り返って

二年一組 島田 涼太

私は東北学院大学に訪問しました。実際に訪問してみても、校舎がとても大きくて驚きました。中に入って私たちは「未来の扉センター」というところへ行き、東北学院大学が行っている地域ボランティア活動について教えてもらいました。地域とのつながりを大切にしているのすごいと思いました。案内してくれた学生さんに普段の学校生活を見せてもらい、落ちついた環境で勉強していると感じました。今回の訪問で、大学にとっても興味を持つことができました。将来を考える上でとても貴重な経験になりました。



## 役に立つ仕事に就くために

二年一組 馬場みくり

上級学校訪問で仙台医師会看護専門学校に行き、看護師さんになるための授業を見学しました。将来、怪我をしている人や体の不自由な人の手助けをして、多くの人の役に立ちたいと思います。この学校を訪問しました。雰囲気は温かくて優しい人ばかりで、このような人が、将来多くの人の役に立てるのだと思います。看護師免許の他にも保健師や助産師の免許があることを知りました。将来のイメージをしつかりと持ち、これからもたくさん努力し、何事にも諦めず頑張ろうと思いました。



## 立志式を終えて

二学年部長 佐藤真希子

あんなに小さかった子どもたちも、早いもので元服に相当する「立志」の節目を迎えることになりました。そこで、二学年PTA役員が中心となって「立志式」を計画し、開催させていただきました。 「14歳の決意」として、将来の夢や目標を堂々と発表する子どもたちの眼差しは、自分の足で未来へ踏み出そうとする強い決意に満ち、胸が熱くなりました。これからも子どもたちが健やかに成長していけるよう、皆様と共に見守って行けたら幸いです。皆様のお力添えに感謝申し上げます。



# 三学年 稲井中は思い出の宝石箱やあー！

## 運動会

心は満点！赤組ナンバーワン！

赤組団長 三浦 龍誠

赤組の応援練習は、最初なかなかまとまらず不安を抱えてのスタートでした。しかし、練習を重ねていくうちに、後輩たちの声も出てきて、団結力が高まっていくのを感じました。

応援リーダー達が集まって四月から考えていた理想の応援に近付くようになり、手応えを感じながら迎えた本番当日。赤組の皆は全力で声を出して、キレッキレのダンスを披露しました。結果は準優勝でしたが、皆で楽しみながら応援できたことが嬉しかったです。ありがとうございます！



## 修学旅行

修学旅行 浅草

三年一組 赤間 星河



青組、勝ちやダメですか♡

青組団長 松浦 彪夏

応援合戦では、一年生から三年生まで全員が心をつにして取り組みました。一年生は初めてながらも、一生懸命に声を出し、二年生は中心となつて全体を引っ張ってくれました。本当にありがとうございます。皆の協力があったからこそ、最高の応援を作り上げることができました。

学年を超えて絆を深められたことが何よりの思い出です。



浅草では、三浦徹先生から出された英語の課題に取り組みました。外国人に英語で話しかけるチャレンジは、三回連続で断られてしまい諦めかけました。しかし、偶然にも外国人から「写真撮ってください。」と話しかけられて「写真を撮った後に話してもいいですか？」と聞いたら「OK」と言ってもらって、課題をクリアすることができました。自分の担当するところをしつかり話すことができ良かったです。

修学旅行 三鷹の森ジブリ美術館

三年二組 足立 桃香



トトロの受付を過ぎると、館内はレトロな雰囲気です。壁一面にはジブリ作品の原画が展示されていました。宮崎駿の制作部屋も公開されていて、屋上につながる螺旋階段を上ると、ラピュタのロボット兵の模型と文字盤がありました。ロボット兵はとも大きく、今にも動き出しそうです。文字盤に書いてある文字は何が書いてあるか分からなくて、ムスカにはなれませんでした。

子どもの頃から大好きなジブリの世界に行くことができ、とても幸せな気分になりました。



それぞれの道へ

三学年部長 阿部 弥生

三年前、緊張した面持ちで入学した子どもたちの姿が、つい昨日のこのように思い出されます。そして今、卒業の時を迎えました。

運動会や文化祭では、最髙学年として仲間を思いやり励まし合いながら懸命に取り組む三年生の姿が、強く心に残っています。日々子どもたちに寄り添い、導き、支えてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

子どもたち一人ひとりが、自分の歩幅でそれぞれの道を大切に歩いていけることを願っています。

